

いばらきさとやま祭校

里山のたまり場 御前山

(2007 年～2023 年)

～私達のチャレンジ～



2009 年 5 月 第 1 棟目のツリーハウスが完成

里山のたまり場 御前山

里山のたまり場 御前山




いばらきさとやま楽校とは

茨城県北部7市町のグリーンふるさと圏域（日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、城里町、大子町）には、四季折々の変化に富んだ自然やさとの豊かさを活かした人々の暮らしが息づいています。

さとやま楽校は、圏域内で行われているそば打ちなど風土から生まれた食の体験や古くから伝わる漆塗り体験など、各拠点校の体験活動を通して多くの皆さんにさとやま生活の魅力に触れていただくとともに、都市の皆さんと圏域の皆さんとの交流を活発にすることによって、地域の元気づくりを進めていこうとするものです。

県北地域のさとやまでしか味わえない食、文化、自然体験などを楽しく学びながら、大きな感動と新たな出会いを体験してみませんか。



— 目 次 —

はじめに	1
1 里山は楽しい魅力がいっぱい	2
2 たまり場の開設	3
3 間伐材を使ってツリーハウスの整備	5
4 各種体験活動の受け入れ	7
5 農作業体験の実施	11
6 森のこどもひろばで体験活動	12
7 棚田の復活と保全作業	15
8 スリランカ支援と料理を楽しむ集い	17
9 常磐大学生の日本料理教室	18
10 他のサロンとの交流	19
11 たまり場の昔遊び、遊具など	21
里山からの便り：NHK 第1 ラジオ「ひるのいこい」投稿文	23
主な新聞報道	30

はじめに

常陸大宮市の御前山地区は、「関東の嵐山」と言われる標高 186 メールの御前山とそれに連なる山々や優れた眺望の三王山などがあり、里山と那珂川の清流が織りなす美しい景観、イチゴのハウスが立ち並び野菜を育む良質な大地を有するなど恵まれた自然環境にあります。

茨城県社会福祉協議会では、人々が気軽に集まれるサロン活動を推進し、県内各地にサロン活動が広がっています。サロン活動は、街の中において高齢者の健康維持や見守り、食事の提供などを中心に活動が展開されています。私達は、里山にも人々が気軽に集まれる場所が必要ではないかと考え、また高齢者を対象としたサロン活動が多い中で、子ども達が自然にふれ、様々な体験活動を行い、元気になってくれることを目指し、常陸大宮市野口に 2007 年 7 月に里山のたまり場御前山を開設しました。四季折々に変化する自然の美しさを堪能しながら、里山の環境保全や農業を通じた食の安全、自然と共に暮らす喜びなどを体感することができます。

たまり場の運営の要となる指導員の皆さんの協力をいただきスタートしたたまり場は、多彩な特技を持った皆さんに支えられて竹細工や水鉄砲、竹トンボ、凧作りなど多くのメニューを考案することができました。また火起こし道具の製作や子ども達に分かりやすい火起こしの歴史を学ぶパワーポイントも作っていただきました。休耕田になっていた棚田の復活や棚田の保全作業にも多くの労力をいただきました。皆さんと苦労して開拓した棚田で作ったお米は、本当に美味しかったです。

たまり場の運営に当たっては、茨城県水戸生涯学習センターや県北生涯学習センター、大洗のたまり場だまっこなどと連携し、多様な体験メニューを提供してきました。また、常磐大学や国際協力団体などとも協力して、食の体験や国際交流など幅広い活動を推進することができました。

御前山青少年旅行村に宿泊してのツリーハウス造りは、忘れられない思い出です。子ども達がたまり場に来て元気になって帰って欲しいという強い思いから、森にはツリーハウスを造りました。森の中を元気に走り回る子ども達の姿を見ると、たまり場を開設して本当に良かったと思います。

2007 年に開設して以来 2023 年 5 月まで 16 年間にわたり行ってきた里山のたまり場御前山の活動内容を取りまとめました。日本が世界に誇る里山を保全する活動に少しでも役に立ていただければ幸いです。



1 里山は楽しい魅力がいっぱい

●暮らしの知恵

里山には、たくさんの暮らしの知恵があります。井戸ポンプ、石臼、唐箕など農具にはいろいろな工夫が凝らされています。このような工夫を学び、日常生活に活かしていきたいものです。



井戸ポンプは、子ども達の格好の遊び場です。水鉄砲を作って遊んだ時には、水が枯れるほどポンプを漕ぎ、洋服はずぶ濡れでした。



アリジゴクも子ども達の関心の的でした。長い時間観察し、アリが引きずり込まれると「ザンコク」との音が。



カブトムシは、落ち葉を積み重ねたたい肥の中で育ちます。雑木林の中でも捕まえることができます。林の中でクワガタを見つけると、子ども達から大きな歓声が上がりました。

2 たまり場の開設

●農家の乾燥場

里山のたまり場御前山の建物は、農家がタバコを乾燥させるために使っていたものでした。タバコの葉を何段にも吊るして乾燥させるため、天井がたいへん高い建物です。



●工作体験室

竹トンボや水鉄砲などを作り、雨の日には積み木遊びができる工作体験室です。間伐材で作った約



6,000 個の積み木があります。子ども達は、積み木遊びを始めたら、夢中になり止めることを忘れてしまいます。

●改築してたまり場の開設

この建物を改造して工作室や絵手紙ギャラリー、多目的ルームなどを作り、里山のたまり場御前山を開設しました。たまり場やサロン活動は、街の中に人々が集まれる所（居場所）を作ろうとする運動です。里山にも人々が気楽に集まれる場所があったら良いと考え、開設しました。



●絵手紙ギャラリーの設置



さいたま市在住の絵手紙作家宇田川恭子さんの作品の常設展。里山の風景や野菜、果物など四季折々の作品を展示しました。地元の人達や体験活動に来られた方に鑑賞していただきました。

●たまり場の開所式

2007年7月に茨城県社会福祉協議会の地域福祉推進部長や絵手紙作家宇田川恭子さん、たまり場・たろう代表小松崎登美子さん、常陸大宮市社旗福祉協議会、グリーンふるさと振興機構など多くの皆さんの出席をいただいて開所式を行いました。



ゲスト出演として洗足学園音楽大学の学生さんが参加し、フルートの演奏や声楽を披露してくれました。



また、たまり場のオープンを記念して子ども達によるくす玉割りを行い、完成を祝いました。



子ども達もたくさん出席してくれました。



3 間伐材を使ってツリーハウスの整備

●間伐材の運び出し(2008.12)



切り出した杉の丸太は、生木なので大変重く1本の丸太を8人で担いで運び上げました。

●ツリーハウスの建設に着手



2009年1月から間伐材を使って雑木林の中にツリーハウスの建設を始めました。それぞれの人が持つ特技やアイデアを活かしての作業です。金槌やノコギリ、チェーンソーを使っている作業なので危険も伴いますが、大人の人達がしっかりと見守り作業を進めました。

●完成したツリーハウス

ツリーハウスの仕上げは、御前山青少年旅行村に一泊しての作業でした。宿泊したことによって皆さん相互の交流が進み、2009年5月に第1棟目を一気に完成させました。



皆さんの顔が満足感に満ち、輝いています。



2人の子どもが肩に手をかけて仲良しブランコ



丸太のシーソーはかなり丈夫です。

●第2棟目のツリーハウスづくり

2011年7月第2棟目のツリーハウスが完成しました。デッキの上で竹細工や紙飛行機づくり、シャボン玉飛ばしなどを楽しみました。



第2棟目が完成した日には、シイタケの駒打ち作

業も体験しました。子ども達は、初めての体験に興奮です。



丸太で造ったシーソーは大人気です



ツリーハウスを造った森には、子ども達が楽しく遊んでくれるように「こどもひろば」と名付け、入り口に掲げました。

4 各種体験活動の受け入れ

茨城県生涯学習センターや地域子供会、学校などから体験活動の依頼を受けて、指導員がそれぞれ担当して実施しました。1回に30人程度の受け入れが可能です。

●指導員

県内各地からいろいろな特技を持った皆さんが、指導員として協力してくれました。



●水鉄砲づくり



糸を結ぶことは、ほとんどの子どもができません。この体験で覚えてくれたら嬉しいです。

●流しそうめん



指導員の皆さん大張り切り。



美味しかった。



お箸では間に合わなくて、手で取る子もいました。

●竹トンボづくり

竹トンボづくり用のキットを用意して、子ども達が作りやすいように工夫してくれました。



竹トンボは羽根の角度（曲げ具合）が肝心です。



竹トンボを作った後は、ノコギリで竹切り、ナタで竹割りにチャレンジです。

●火起こし

パワーポイントを使って火起こしの歴史について学習しました。



指導者の人が、火起こし用具を作ってくれました。



着火にはかなりの回転数が必要です。煙が上がると大歓声！

●紙飛行機づくり

手軽にできる体験活動として紙飛行機を作り、飛ばすことを取り入れました。飛行機の種類によって飛ぶ距離や滞空時間が異なります。



近くの公園で飛ぶ距離を競争しました。なかなかうまく前に飛んでくれない。

●絵手紙づくり

親から子へ、子から親へ感謝の絵手紙を作っても



らいました。「お父さん、一緒に遊んでくれてありがとう」など嬉しいメッセージがたくさん。



那珂川の石に講師の先生がたくさん描いてくれました。

●ミニ門松づくり

年末には、正月用のミニ門松づくりを体験しました。お母さん達は真剣に作ってくれました。良い正月を迎えられたこととでしょう。



●凧づくり

常陸大宮市山方で作られている西の内和紙を使って凧作りを行いました。糸を縛るのが難しい。



●収穫した野菜で料理体験

ジャガイモ掘りを行った後、ジャガイモ、ニンジンで料理してカレーライスを作りました。包丁体験は初めてです。



講師は管理栄養士です。野菜についてもいろいろ



なことを勉強しました。

●シャボン玉を楽しむ



水鉄砲作りの後はシャボン玉です。自分の手で上手にシャボン玉を作ってくれました。

●紐結びの学習

子ども達は紐を結ぶことができないことから、赤白の2種類の紐を用意して体験を行いました。



講師の方の工夫が素晴らしいです。たまり場で紐

結びの学習をした後は、棚田で藁人形を作りました。



しっかり結ぶには力が必要です。

5 農作業体験の実施

●ジャガイモ掘り



水捌けのよい土地なので美味しいジャガイモが収穫できました。



子ども達はいろいろな遊びを考えてくれます。

●サツマイモ掘り



掘ったイモは重量を計ってお土産になります。



●ダイコンに感激



サツマイモの畑の近くにダイコンが育っていました。子ども達からダイコンを採っても良いかとのリクエストがあり、収穫し持ち帰りました。ナスやピーマン、キュウリ、シシトウなど季節の野菜の収穫体験も行いました。



畑の中でイモの蔓を結んで大縄飛びです。

6 森の子ども広場で体験活動

●竹細工



竹で花瓶づくりに挑戦です。皆さんまずまずの出来具合です。

●シイタケの駒打ち



初めての体験ばかりです。



菌を打った楣木（ほだぎ）は、ビニールシートを掛けて菌の繁殖を促し、杉林に本伏せしました。

●シャボン玉を飛ばそう



第2棟目のツリーハウスの上でシャボン玉を飛ばすと、風を受けて高く舞い上がります。

●カブトムシはカッコいい



森の中で見つけたカブトムシの幼虫。宝物です。成虫になるのが待ちきれない！

●世界でたった一つのこいのぼり

交流のある守谷市の方から白地のこいのぼりを長



年にわたってプレゼントしていただくことができました。それぞれの家庭に配布して絵を描いていただきました。親子で、子ども一人で、それぞれの思いのこもった世界でたった一つのこいのぼりです。5月の連休には、ツリーハウスの森に飾りました。



●トーテムポールづくり



指導員はたまり場の近所の方です。



洋服はペンキでカラフルに。でも楽しかった。

●スラックライン体験



バランスを取るのが本当に難しいです。



森には仮面ライダーも登場しました。



杉の木の皮むき体験も行いました。



里山の達人からシイタケの原木づくりの指導を受けます。



7 棚田の復活と保全作業

●泥んこになって田植え

ツリーハウスの森に隣接する未利用の棚田を耕し、米作りを始めました。給水設備がないので雨水を利用しての米作りです。



●ハーベスタをお借りして脱穀

近所の農家のハーベスタをお借りして脱穀作業。



●初めての稲刈り



ノコギリ鎌を使っの稲刈り作業。紐で結んで小田掛けの準備です。

●小田掛けして天日干し

農家では、倉庫の軒先に小田木が保存してあります。古い小田木を持ち出して小田掛け。1週間から10日ほど太陽にさらして100%天日干しの米ができます。

●とにかく美味しいお米でした

棚田開拓1年目の収穫量。まずまずの量でした。





稲刈りにはたくさんの皆さんが参加しました。



棚田 2 年目の収穫。少し収量が減りました。

●棚田の保全作業



かなりの湿田のため馬力の高い耕運機を購入。それでも耕運作業は悪戦苦闘です。マンノウで耕すのは大変でした。

●定期的に草刈り作業を実施



草刈り作業の後は棚田の姿が良くわかります。



柔道の研修で来日したフィリピンの青年 2 人も山手入れ作業に参加してくれました。



棚田を守ってくれた常連の指導員さん達です。

8 スリランカ支援と料理を楽しむ集い

●体育館シューズをスリランカにプレゼント



県北生涯学習センター、スリランカとアジア友の会と一緒に、県南地方の高校から提供された体育館シューズをクリーニングし、スリランカの子ども達に届けました。

●野球用具のクリーニング

水戸市の少年野球チームから野球用具の提供を受け、メサ・フレンドシップの協力を得てクリーニングを行い、スリランカの子ども達に届けました。



クリーニング作業の後は、スリランカから来県中のお母さんの作ってくれた料理をいただきました。



スリランカのカレーライスは独特の味です。



9 常磐大学生の日本料理教室

常磐大学に海外から留学している学生から、国に帰ったら日本料理を作ってあげたいので勉強したいとの申し入れがありました。たまり場の指導員の皆さんが、4つのグループに分かれて実施しました。

●けんちゃん汁作り



●つけもの作り



●そば打ち



●おにぎり作り



●できた料理をみんなで食べました



終わった後は、皆さんで記念撮影。良い経験でした。

10 他のサロンとの交流

●水戸市の「ふれあいサロンユーカーリ」を訪問

高齢者の交流と安全確保を目的に設置されたサロンです。たまり場の指導員3人が訪問してハーモニカの演奏、ハーモニカに合わせた合唱を楽しみました。



●小学校放課後児童クラブへ派遣

大洗町や茨城町の放課後児童クラブからの要請により、シャボン玉づくりを実施しました。

●たまり場指導員の派遣

大洗のたまり場「だまっこ」からの要請により、竹トンボづくりの指導員を派遣しました。同時に小さい子ども向けにシャボン玉も楽しんでもらいました。





手でシャボン玉を作る子も。

●茨城町の「常陽の森ボランティア」を訪問

御前山にも何度か来ていただいた「常陽の森ボランティア」を訪問。手作りのテーブルや丸太の椅子などいろいろな工夫がされています。



●水戸市民球場のイベントに参加

水戸市主催のイベントに参加を求められ、水鉄砲づくり体験を行いました。



●守谷市社会福祉協議会

何度も来ていただき交流を深め、いろいろな体験活動をしていただきました。



1 1 たまり場の昔遊び、遊具など

雨の日の体験活動や休憩時間などを利用していろいろな遊びを体験しました。

●雨の日の積み木



間伐材を利用して作った積み木 6,000 個を購入し、雨の日の活動メニューに加えました。



●トランポリンは楽しい



仲良く交代しながら遊んでくれます。

●バンブーダンスにチャレンジ

フィリピンの伝統文化であるバンブーダンスを体験しました。難しいけどコツを覚えると簡単。



●かき氷は大好き



夏の体験活動では、かき氷のサービスもあります。

●ぽっくりは気持ちいい



小さい子ども達にはとにかく人気です。

●竹馬は難しいけどチャレンジしたい



昔は足袋を履いたり、素足で竹馬に乗りました。
靴を履いてのチャレンジなのでなかなか大変です。

●フラフープにチャレンジ



【参考資料】

● 森のようちえん運動

- デンマークでスタート
ドイツを始め世界的に
日本でも全国ネット
- 子ども達の創造力助長
道具は少なくても良い
- 丸太に跨って遊ぶ
飛行機、潜水艦、戦車
- 生き物の宝庫
植物、昆虫、小動物
- 危険と体験



● ドイツの教育者フレーベルの言葉

- ・一番大事な教育は、幼児の頃、子どもを存分に遊ばせることだと説いている。
- ・その人が、**幼児期にどれだけ熱中したり、夢中になる経験を積んだか**が大きく影響してくる。
- ・その発見に基づいて、子ども達が思い切り遊べる世界を与えたいと考えたのが幼稚園の始まりである。



● 子育ては公共事業(こども未来賞)

- うちの子が悪いことをしたら叱ってやって欲しいねん。子どもは親の目を盗んで悪いことをするし…**子育ては公共事業や**。頼むは。
- 公園デビューした長男は、ヨソ様に叱ってもらったり、教わったり、ほめられたりする中で…ルールをちゃんと守るし…生きる力の実態を身につけた。
- 社会全体で子どもを育てるという気持ちや活動を進めることの大切さ。
- 「言葉の持つ力」、これが子育て支援にとって大変重要な意味を持つ。
→ 一生の声の持つ力、言葉の力が大切(会話の不足)

里山からの便り

NHK第1ラジオ ひるのいこい

投稿文集



茨城県那珂市 小野瀬 静子

はじめに

私の実家は、関東の嵐山と呼ばれる御前山の近くにあります。母が2001年に亡くなり、父も2012年に他界しました。

働き者だった両親が耕していた田畑を荒らしたくないという思いに駆られ、夫と共に車で片道40分の道のりを通いながら守ることにしました。

畑では野菜を作り、6年前から米作りもしています。山では、里山活動を支えてくれている人達のおかげでツリーハウスが完成し、小学生親子の里山体験を受け入れています。

退職して10数年。山と川に囲まれた大自然の中で土と共に生きている日々の感動を書き留めて、投稿することを思いつきました。投稿先は、NHK第1ラジオひるのいこい。放送が70年続いている番組です。採用になると、音楽に乗せてアナウンサーの名調子で読まれます。全国放送ですので、採用されることはなかなか難しいですが、放送されるたび、私の心の中で小さな花がひとつ、またひとつと開く喜びを感じています。

これまで放送されたものをまとめた里山からの投稿文集ですが、お読みいただければ幸いです。

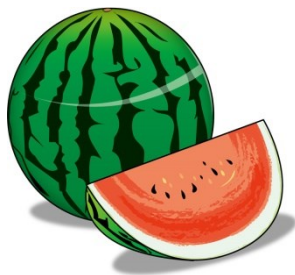
(2021年9月 記)

2019年6月15日（土）放送

梅雨に入ってカボチャのつるが、ぐんぐん伸びてきました。「栗みやこ」という品種。花を咲かせ、小さな実を付けます。梅の実位になったと見ていたら、今日はもうみかんの大きさになっています。

2019年8月5日（月）放送

真夏日がやってきた先日、天気予報を見るとこの先ずっと晴れマークで、気温も33～34度です。30度を超えると、スイカはぐんぐん育って甘くなります。収穫できたら、届けたい人がいるので楽しみです。スイカには嬉しい暑さです。



2019年9月10日（火）放送

田んぼが黄金色に染まりました。5月の連休に田植えをしてから4か月。梅雨の間も、猛暑の時期も、朝夕見回りをしてきました。誇らしげに頭を下げている稲穂。稲にと

ってもフルマラソンを走り終えた気分で



しょう。

2019年10月8日（火）放送

今年は、サツマイモの出来がすこぶるいい。色良し、形良し、味はさらに良しです。大好きなのは天ぷら。イモの天ぷらは、毎日食べても飽きません。ほのかな甘みとポクポクの食感に唸っています。

2019年11月18日（月）放送

「三人でランチしない？」と50年来の友達とミニミニ同窓会を開きました。野菜を作っているごっつい手にネイルカラーをしたら気持ちが華やぎます。いそいそと出かけました。

たかが指先。されど指先。桜色が元気をくれました。

2019年12月20日（金）放送

両親亡き後、実家の田畑を守っています。車で通いながらの野菜作り。畑が今青々としています。ネギ、白菜、

大根の葉の元気なこと！

料理に使い、フーフー言いながらいただいています。



2020年2月3日（月）放送

退職後、ほしいも作りを始めました。干したさつまいも。茨城の特産品です。

見よう見まねで覚えました。冬枯れの里山。空気が凜としています。出来上がったほしいもは、金運に恵まれそうな黄金色。袋に詰めてラベルを貼ります。注文に応じる日々が続いています。今年は晴天が続かない。仕上がりに日にちがかか

っています。かかりつけの目医者さんには、乾燥する冬の点眼は一日4回が常ですが、今年

は3回でいいと言われました。雨の日の多い冬でした。



2020年3月19日（木）放送

お彼岸は畑が動き出す季節です。ハウスの中で夏野菜、ナスやシシトウなどの種まきが始まりました。ジャガイモの種いもの植えつけも間近です。

働き者だった亡き両親。今、私達夫婦が命のリレーをしています。

2020年5月22日（金）放送

夫は種まき名人。私は草取り名人。二人三脚の野菜作りが10年を超えました。

この夏は、まずグリーンピースを収穫。早速豆ご飯をつくりました。まっ白なご飯に緑色が鮮やかです。大地に感謝していただきます。



2020年8月8日（土）放送

夏の野菜作り。

スイカの収穫が楽しみです。作業をして、汗だくになった体にはスイカが一番！ だから真夏日が欲しいです。長梅雨だったせいで育ちがイマイチなのです。どこまで甘くできるか？ スイカにとっても試練の日々が続きます。

2020年9月11日（金）放送

田んぼが一面黄金色になりました。イノシシ対策の電気柵をめぐらせた稲田。収穫期を迎えました。

作物を荒らす生き物と戦うことが最近の農業なのです。

耕作放棄地が増えていますが、知恵を絞って里山の農地を守ります。

春菊違う！ 次の列に移ってホウレンソウ違う！ 次の列に移ってチンゲンサイ。チンゲンサイでようやくついに始めました。

鳥にも好みの野菜があるのでしょうか？



2020年10月20日（火）放送

野菜作りのかたわら、小学生親子の里山体験を受け入れています。

先日はいも掘りでしたが驚きました。いもを掘りとった後、畑の真ん中で、子ども達が大縄飛びを始めたのです。

さつまいものつるをつなぎ合わせて縄にしていました。



2021年2月22日（月）放送

農閑期なので、山の下刈りをしています。刈払い機を肩に掛け、篠・細い竹を刈り取るのです。

うなるエンジン。回転する歯車。

山は急斜面で、土は乾いていて、枯れ葉は滑ります。安全第一の山仕事です。



2021年1月13日（水）放送

背中黒い野鳥が1羽電線から畑に舞い降りました。

2021年4月7日（水）放送

春本番！ 畑が動き出しました。

ジャガイモの植え付けをして1ヶ月。芽

が一斉に出てきました。地面の中の種ジャガイモから土を持ち上げ、地面を割って出てきた濃い緑色の芽。
収穫まで大事に育てます。

2021年5月27日（木）放送

田んぼが少しずつ緑色を増しています。
田植えをしてから3週間。よく根付いた苗が気持ちよさそうです。
丈を伸ばし、株を増やし、成長し続ける稲。
朝夕見回りしながら、「頑張ってるね！」と声を掛けています。



2021年7月19日（月）放送

やったー！ 初収穫のスイカ。
赤くて、甘くて、シャリシャリの食感。
完璧！
今年は雨が多く、気温もあまり上がらない中、良く実ってくれた。
スイカよ、ありがとう！

2021年9月9日（木）放送

田んぼが黄金色になり、収穫期を迎えました。コンバインが近く刈り取ります。
稲が一部倒れましたが、地域の人は、「でんげるのは重く実った証拠」とほめてくれます。倒れるのを「でんげる」と言うのです。6年目の素人ですが、豊作の予



感がします。

2021年10月29日（金）放送

毎年、真冬の大雪に味噌を仕込んでいます。その材料となる青大豆が、間もなく収穫できます。収穫直前の楽しみ。緑色のさや、ふっくらと膨らんだ豆。ゆでて枝豆として食しながら秋を感じています。

2021年11月22日（月）放送

「関東の嵐山」と呼ばれる名所からほど近い私のふるさと里山。

真ん中を川が流れ、国道が走り、山を背にした数十軒の集落。紅葉が見頃を迎えました。

畑には、大根、ネギ、白菜など青々と育っています。



2022年1月20日（木）放送

冬枯れの里山。空気が凜としています。

畑では、こぶし大に育った空豆の芽が寒風に耐えています。

ほし芋作りを終え、次は味噌を仕込みます。

実家までの30キロ。通いながらの里山暮らし。16年目スタートです。

2022年2月18日（金）放送

家から車で40分。関東の嵐山に架かる橋を渡れば私のふるさと。

庭の日だまりに、福寿草が咲き出しました。亡き両親が植えた福寿草。

黄色い花が両親の顔に見えます。

「毎日来てくれてありがとう」と言っているようです。



2022年4月4日（月）放送

春到来！ 田畑が動き出しました。

ジャガイモの種イモを植え、大根、人参の種まきをしました。

畑で摘んだ白菜のなばなをサッとゆでたらまっ青！

春の味に元気が湧きました。

2022年5月9日（月）放送

田植えの季節です。山を背にした集落。

その前に広がる田んぼ。

新緑の中で田植え機を操縦する夫。パタパタと心地よい音をたてています。

いとも簡単に田植えができる光景を亡き両親に見せたかったなあ。



2022年6月17日（金）放送

梅雨の晴れ間は大忙しです。

収穫した玉ネギは涼しい所に保管し、ラッキョウは酢漬けにしました。

次は、落花生畑の草取り。さらに田んぼの周りの草刈りと続きます。健康で働けることに感謝しています。

2022年8月1日（月）放送

あっ穂が出てる！と夫の歓声。田植えをした5月から朝夕見回りをして80日目。

一株40本以上、茎が太くまっすぐに伸びている稲から穂が出ています。

稲穂がザラーンと垂れていくのを夢見ています。

2022年11月12日（土）放送

年賀はがきの季節。

毎年、いところが勤務している郵便局から購入しています。

お礼にとくれたつきたての餅。お汁粉を作りました。

一口、二口……。幸せに浸っていたその時 ジャリ!!

差し歯が餅の中に。アチャー!!



2022年12月19日（月）放送

静かな冬の里山。

干しいもを作っています。かまどで薪をガンガン燃やして蒸かしたさつま芋。芋の皮をむき、スライスして、網に広げ、天日で干す。

夫と行うこの作業、阿吽の呼吸です。



2023年2月3日（月）放送

実家を売ることにしました。

市役所が窓口の制度を通してです。

美味しいお米や野菜がとれる里山。

大自然の中で四季折々の楽しかった日々。

農業が大好きな若い方を待っています。

2009年3月29日

里山の魅力アピールへ

竹細工作りや
農機具を展示
体験・交流館が誕生

常陸大宮

里山のよさを多くの人に知ってもらおうと、常陸大宮市野口に整備を進めていた「さとやま体験・交流館」が完成し3月28日、同所で完成記念セレモニーが開かれた。里山を愛する市民らで構成する市民団体「里山のたまり場・御前山」（小野瀬武康代表）が整備に当たり、ギャラリーや工作体験室などを備えた。セレモニーでは、テープカットや演奏会などが行われ完成を祝った。



体験・交流館は、自山（里山）の自然や暮らし、恵みなどを紹介している。常陸大宮市出身の絵手紙作家の作品を展示。また、とうみなどの農機具も展示し、子どもたちが昔の農作業に理解を深められるようにしている。整備費用は約350万円で、里山のたまり場・御前山メーンバーの善意金やグリーンふるさと振興機構の補助金で賄った。里山のたまり場・御前山は2008年7月に結成し、現在のメンバーは約35人。同市野口地区に自然の樹木や間伐材を活用したツリーハウスを制作したり、カブトムシ養殖場を整備するなどの活動を展開している。

同メンバーや地域住民らが出席した記念セレモニーでは、小野瀬代表が「自由に集まり楽しんでもらえる場所を、ということで作った。物を作る喜びを知り、多くの人の出会いの場、交流の場となつてほしい」とあいさつ。

続いてテープカットとくす玉割りが行われ、これまでの活動状況が紹介された後、音楽大生たちのピアノやフルート演奏が披露され、セレモニーに花を添えた。セレモニーの後に参加者たちは早速、工作体験室で竹を使った花入れの制作を楽しんだ。

体験・交流館は土・日曜日に一般開放し定期的にイベントを開催する予定。問い合わせは小野瀬代表宅 029（2998）2539へ。（後藤秀治）

小野瀨武康

え、里山のたまり場口には「こじ

寄稿

涼な空気に満ち、たくきと感動がいっぱいである。命ある。さんの資源がある。この豊里山は、放置していい宝庫である。かな資源も使われてきたらたちまち雑草や樹木がはびこり、荒れ果てる。また、どつぶり自でてしまふ。里山を守る。然の中で過ごす時間には、どうしても人は、私たちに元氣を取り戻ちこちの里山でツリーしてくる。ハウス造りが進み、ツリーハウスを「たまり場」として、都市と地域の人たちが力を合わせた人と人、それぞれに触れ合いの中かせ、里山を守る活動に気付き、自分の新たな能力を発見する。な能力を発見する。とを心から願っている。里山の出合いは驚

「たまり場」で里山を元気に

激していた。

小学4年生の佐藤百

「ツリーハウス造りで
まで知らなかったこ
から歩かされた。」

とを覚えたり、やった
里山は

ら、他人の素晴らしさが県内各地に広がることに気持ち、自分の新たな心を願う。能力を発見する。

ど、里山の出合いは驚

県民の
声



子どもたちに
体験の機会を

▲農家の建物を改築し、地域の皆さんが集える「たまり場」を開設。竹細工や野

菜の収穫、雑木林の中でのワークシヨップなど子どもたちの体験活動を受け入れ
ている。

▲活動の最中に何人かの子は抜け出して古井戸のガチャポンプで水遊び。休憩時間ともなると井戸の周りは大にぎわいだ。竹馬やパドミントンは親子の楽しいひとときで、「お父さん、遊んでくれてありがとう」と手紙を書いた子どももいた。サツマイモ掘りで、大きなイモを掘り当てた時の喜びようは大変だ。ゲームばかりしていて遊び方を知らない子も、親の手を借りて精いっぱい体験活動や昔遊びに挑んでくれ

代（業

た。

▲里山は子どもたちにとっ
て驚きがいっぱいだ。ゲー
ムを忘れて思い切り自然の
中で遊び、いろいろな体験
ができる機会を設けてあげ
たい。

(常陸大宮市 NGO団体
代表 小野瀬武康 73歳)

(2019.11.25)

(2019.11.25)

中心的に協力してくれた指導員の皆さん





2011 年第 2 棟目のツリーハウスが完成

里山のたまり場 御前山

311-0113 那珂市中台 852-9

電話 029-298-2539

Mail tonose1946@gmail.com

令和5年5月作成